



伊高だより

Iesaki High School

with
コロナ
SS&S

伊高生、輝きはじめる

伊勢崎高校は八月十七日から2学期が始まっています。昨年度末から六月まで新型コロナウイルス拡大防止のため臨時休校となっていたことから、授業の遅れを取り戻すべく、夏休み期間は大幅に短縮されました。

陸上競技部

群馬県高等学校体育大会 陸上競技大会
男子8種競技 第3位 3年 正田 岳さん インタビュー

八月に行われた競技会において、3年生の正田岳さんが、男子8種競技において第三位という優秀な成績を収めましたので感想をお聞きました。

僕は中学時代から陸上競技に取り組んできました。もともとは幅跳びを得意として、一時短距離も専門としていましたが、顧問の西山先生のすすめもあり、8種競技を中心に取り組んできました。8種競技とは『走る』『投げる』『跳ぶ』の全ての力が必要となるもので、今回も

ウイルスの感染状況については連日報道されているとおりですが、本校としても新しい生活様式を模索しながら、徐々に学校を正常化させてきています。

部活動は七月二週目から始まりました。予定していた大会の中止や、活動の制限を受ける中、感染防止対策や熱中症等についても配慮しつつ、伊高生は輝きを取り戻してきています。

二日間にわたって行われた競技は、肉体的にも精神的にも厳しく、同時に戦略的な試合運びも要求されました。幸運だったのは2種目めの幅跳びで、自己ベスト(6メートル28センチ)を出せたので、波にのることができ、トップ選手にくらいいつい

ていくことができました。最後まで上位選手と競り合い、2位とはあと2点差まで詰めよる場面もあったのですが、最後の種目の走り高跳びで逆転することができず、悔しい思いをしました。

弓道部

群馬県高等学校体育大会 弓道競技大会
女子団体第8位 女子個人11位

3年 横田星乃花さん インタビュー

臨時休業中は練習ができず、大会も半年ほどなく、不安をかかえて臨んだ試合でしたが、一定の成果が出て良かったと思います。

弓道は高校に入ってから始め、一から先輩や顧問の先生にご指導いただきました。初めのうちは悔しい思いをすることも多かったのですが、学年が進むにつれ順位も上がるようになり、弓道に夢中になってきました。

弓道は団体競技もあるので、部員の仲間とともに切磋琢磨し、励まし合い、技術の向上に努めてきました。試合では緊張が強くなると形がくずれるので、精神面の鍛錬も必要でした。今後は大学に進学するつもりですが、サークルなどで弓道を続けていきたいと思いをします。



九月には学校対抗の試合があり、それが引退試合となります。今まで陸上競技を続けてきて、天国も地獄も見ることがありました。苦しい思い出の方が多いのですが、最後に満足いく結果が出せよかったです。

これまで、顧問の西山先生をはじめ、部員の仲間、両親など多くの方に支えられて競技が続けられました。この大会で成果が出せたことが一つの恩返しになったと思います。また、陸上競技は僕にとってライフワークのようなもので、今後も何らかのかたちで続けていきたいと考えています。将来は、マスターズ陸上などにも出場できるようにっそう精進していきたいと思っています。あらためて皆様に感謝申し上げます。



吹奏楽部

サマーコンサート開催 八月八日
伊勢崎市境総合文化センター 3年河島もさん インタビュー

今年の春は、定期演奏会が開催できず、この度のサマーコンサートにおいてもコロナ禍の影響が心配されていましたが、当日はたくさんの方の来場者にお越しいただき、同時にインターネット配信も行い、盛況の内に終了することができました。

演奏会場は伊勢崎市の規定で定員の50%、350名が入場の上限とされていましたが、約300名の来場者がありました。多く、特に部長に就任してから



幻の蒼穹祭

美術部は、壁画作成



美術部は、これまで2年に一度開催される『蒼穹祭』に合わせて、巨大壁画を制作してきました。六月に行われるはずであった文化祭は中止となりましたが、美術部員の”熱い思い”を何としても残したいと、壁画を完成させました。ご来校の際は、是非ともご鑑賞ください。

お知らせ

伊勢崎高校の地番が変わりました

伊勢崎市の区画整理の関係で、本校の地番が以下のように変更となりました。よろしくお願いいたします。

群馬県伊勢崎市南千木町 **5239 番地 1**

↑ 変更箇所 ↓



演劇部 2年 芝崎七海さん他 インタビュー

関東高校演劇サマーフェスティバル (東京)・中止

演劇部は、今回、関東高校演劇サマーフェスティバルの出場を決めていましたが、新型コロナウイルス感染防止のため開催中止となりました。本校では、壮行会もひらいていただきましたが、残念なことに大きな舞台での演技は叶いませんでした。

今回演じるはずであった劇は『砂の少年』というタイトルで、アリと蟻地獄が友情を育むシュールな作品です。東京での公演はできませんでしたが、九月十二日には地区大会審査用のビデオ撮りもあり、現在でも緊張感を持って練習に取り組んでいます。芝崎さん他3名の意気込みをお伝えします。

◆芝崎さん

今回の劇では裏方ですが、ビデオ撮りまで、発声練習や筋トレなどを行い、練習に真剣に取り組んでいます。

◆吉田さん

演じるものが人ではないので、その心情を汲んで表現しようと工夫しています。

◆原田さん

この劇は今まで演じたことがない役なので、役づくりが大変でしたが、この作品の世界観が伝わるような演技をしたいと思います。

◆片桐くん

中学校時代から演劇に携わってきて、今回、せっかくの発表機会がなくなり残念ですが、まだまだ細かいところを修正して、劇の完成度を高めたいと思います。

左から、芝崎さん、原田さん、吉田さん、片桐くん

